



はじめのいっぽ

令和5年度
6月号

令和5年5月31日

認定こども園

東野田ちどり保育園

東野田ちどりキッズ・庁舎内

江川 永里子

丸三年間のコロナ禍が終わり、少しずつコロナ前の生活に戻り始めています。

保育園においては今まで通り消毒など継続して参ります。

今年もツバメが帰って来ました。

4棟全てにひなが誕生しました。大きな口を開けて親鳥からのエサを待っています。

束の間ですが自然界からの力は、癒しと勇気をもたらしています。

季節が春から夏へと動きます。今年の梅雨は長そうです。

体調管理には十分お気を付け下さい。



～ アドラー より ～

さらに子どもの話を聴く

5.開いた質問を使う

質問には「はい」「いいえ」で答えられる<閉じた質問>と、「はい」「いいえ」だけでは答えられない<開いた質問>とがあります。このうち、開いた質問は、人の話を聞かるときに、とても便利です。

開いた質問とは、5W1H といって、「いつ?」「どこで?」「だれが?」「なにを?」「なぜ?」「どんなふうに?」というようなことばを使った質問です。ただし、このうちで「なぜ」はあまり使わない方がいいでしょう。

5W1H の他に、「それで?」「それから?」「もう少し話してくれる?」というような言い方も、開いた質問の一種です。

また、「どういうことがあった?」「どう考えた?」「どう感じた?」「どうしようと思う?」というような開いた質問を続けて使うと、子どもを援助する効果が大きいことがあります。

6.子どもの考えを推量する

<閉じた質問>は、子どもの考えを聴くためよりは、むしろ、こちらの考えを子どもに伝えるために使います。たとえば、「あなたは～と考えているのかな?」とか「あなたは～と感じているのかな?」というように。

もしこのような推量が当たっていると、子どもは「親は私の仲間なんだ」と感じて勇気づけられるでしょう。あるいは、言われてはじめて自分がそんなふうに考えていることに気がつくかもしれません。そうすると、自分の考えをまとめることができます。

もしこのような推量はずれていると、子どもは「違うよ」というでしょう。これは、子どものほんとうの考えを聴くきっかけになりますし、親子間の理解が深まるきっかけにもなります。

7.あなたの考えを伝える

子どもの話をじゅうぶんに聴いてからであれば、あなたの考えを伝えることもできます。できれば、「私の考えを言ってもいいかな?」と尋ねて、子どもが聞きたいと言ってから言うのがいいと思います。「聞きたくない」と言われれば、引き下がる勇気を持ってください。

子どもがあなたの意見を聞きたいと言ったときも、「それは～だ」と事実として言うよりも、「私は、それは～だと思う」というように、意見であることがわかるように言う方がいいと思います。